



前期から後期へ

～培ったものを次に生かして～

学校長 中島 恵津子

ススキの穂が風にゆれ、耳を傾けると虫の音が聞かれるころになりました。私には「リーン、リーン」と鳴いているのが一番多いように聞こえますが、この虫は「アオマツムシ」という名前前で桜の木の上で鳴いているのだそうでよく耳をすますと上から聞こえてきます。草むらで鳴くものと思っていた私は、少々驚きました。霧が丘地区では、10種類位の虫の鳴き声が聞けるそうです。秋の夜のひととき、耳を傾けてみられたらいかがでしょうか。

さて、今月7日で前期が終了します。霧が丘第一小の前期の子どもたちの活動は、どれも生き生きとしたすばらしい活動でした。特に学年に応じた自主性が育っており、運動会や修学旅行、社会見学等にみんなで力を出し合い認め合いながら活動できていました。その中で英語活動という新しい活動も始まりました。総合的な学習の中に位置付けられ、音声を中心とした活動・体験的な活動でそれぞれ学年に応じて英語に慣れ親しんでいます。9月の活動の低学年では、英語で「色」と「体の部分」の単語を組み合わせるゲーム

にしての活動。中学年では、感情表現

(例えば嬉しい、悲しい、等)を英語で表現でき、ゲームとしていく活動。高学年では、「場所」や、「人名」を組み合わせ文章として英語で表現し、ゲーム化もする。どの学年も、児童たちの英語を



聴き取る力はすばらしく、発音することができているようです。また英語活動の時間外でも学習した英語を声に出して表現しようとしている様子が見られます。先日授業を見ていただいた講師の先生からも、「表現力が豊かである。活動が積極的である。」と誉めていただきました。活動のねらいを達成しつつ楽しみながら後期にもつなげて欲しいと思います。

10月13日からはいよいよ後期がスタートします。後期は「クロスカントリー大会」「霧一ザ・ミュージック」「夢いっぱい展」等霧が丘第一小での最後の行事が計画されています。前期で培ったすばらしいものを生かしながら、この半年間を思い出深い有意義なものにできるように子どもたち、教職員一同努力して参ります。これからもご協力ご支援よろしく願いいたします。

